

学生部門 審査委員特別賞

佐藤 優希

東京工業大学大学院

【作品名】

晴れの日も雨の日もウチ・ソトテラスで 居場所をつくるシェアハウス



周辺になじむボリューム



地域の居場所となるソトテラス



家具がなくても床が椅子やテーブルとして使える

1 バックグラウンド



かつては核家族が住み現在は高齢化が進む
郊外住宅地

2 サイト



エベネーザハウズの提唱した
田園都市を参考に造成された住宅地

3 プロポーザル

住宅地に建てる
学生向けのシェアハウス

”高低差のあるテラスのある暮らし”

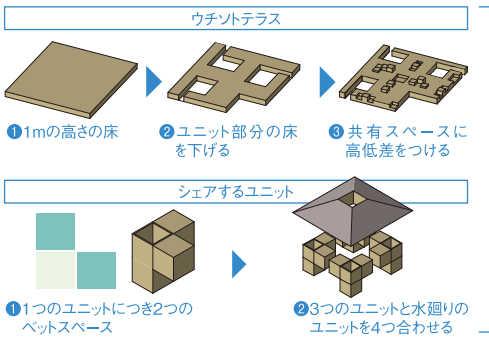
① 家具を備え付けなくても
暮らせる

② 床が変化することで
様々な居場所をつくる

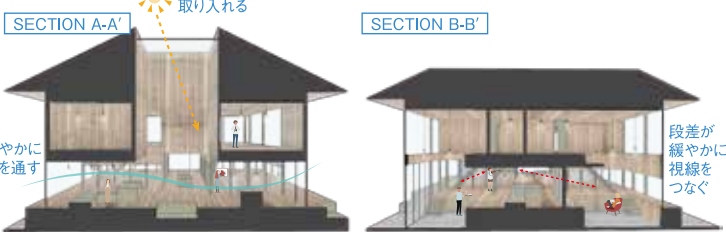
学生の短い居住期間でも家具を
購入せずに済み環境にやさしい

共同生活でもゆっくりとルームメイトと
地域と関係が築ける

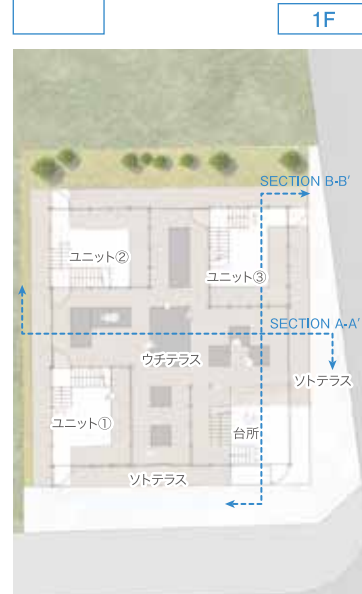
4 ダイアグラム



5 セクション



平面図



設計コンセプト

“時代や世代の変化をふまえた楽しい住まい”とは何かを考えたときに①建築が多くのモノを代替し自由なライフスタイルを提供するとともに環境を考えた暮らし②生活の中で人と関わりを創り出す暮らしの2つが実現できる住まいだと考えました。

敷地は高度成長期に開発され、現在は高齢化が進む郊外住宅地。ここは都心からは離れた一方で、低密度敷地にゆとりがあり周辺環境との豊かな接点が存在しています。そこで同じ家族構成の家庭が多く暮らす住宅地の中に、現人口の多くを占める単身者のためのシェアハウスを提案します。

従来の戸建住宅のように敷地内に庭・駐車場といった特定の用途をつくらず、できるだけ周辺との接点をもたらすような高低差のあるテラスを設けました。1mの高さが基準のテラスは外から見ると

少し堀のようにも見えますが、そばに寄るとテラスの床が様々な滞在の空間を生み、地域と緩やかに関係築くような空間となっています。そのテラスが内部とも緩やかにつながり、壁といった閉鎖的なものではなく、床の高低差がさまざまな隙間を生み、くつろげる空間となっています。床が椅子やテーブル、様々な機能を持ち、住まい手の自由なアクティビティができる場所となります。空間を共有するルームメイトとも高低差で緩やかに視線がつながり、都心で暮らしていた若者世代が新たな郊外住宅地という場所での暮らしの中で、少しずつ新たな関係性を築いていけるような住まいの提案です。

審査委員講評

現在は高齢化が進んでいるごく一般的な住宅団地内の角地に敷地に、あえて若い学生を住ませ、コミュニティの場をつくる問題解決型の計画。セミパブリック空間の提案が素晴らしいと思います。内外にまたがるテラスを主題に示されたCGでは、その美しい空間と楽しさが十分に伝わってきます。ぜひ実現させてみたい作品です。